

---

## 1. 学歴

- 1978年 3月 東京大学教養学部卒業  
1980年 3月 東京大学経済学部卒業  
1989年 12月 経済学博士取得(米国州立ハワイ大学マノア校)  
2000年 6月 ジョーンズホプキンス大学ビジネス・スクール修了, 経営学修士

---

## 2. 職歴・研究歴

- 2019年 7月 - 一橋大学大学院経済学研究科教授  
2019年 7月 - 一橋大学大学院国際・公共政策研究部教授

---

## 3. 学内教育活動

### A. 担当講義名

#### (b) 大学院

マクロ経済分析, 金融論, 公共政策セミナーIV

### C. 講義およびゼミナールの指導方針

国際・公共政策大学院において、経済学の専門知識に基づいて、税財政、社会保障、産業政策などの現実課題を、評価し解決策を提示できる人材を育成します。理論の的確な理解とその適切な応用力、実証にもとづく政策立案のための各種手法の実践力を養うことを目指します。

---

## 4. 主な研究テーマ

- (1) 生年世代・年齢世代毎の特徴・格差問題
- (2) 部門間障壁が自然率や生産性へ及ぼす影響
- (3) 持続可能なマクロ経済バランス
- (4) 「期待」に由る金融政策の効果

---

## 5. 研究活動

### A. 業績

#### (a) 著書・編著

- 『2000年の日本—長期展望テクニカル・レポート』(「第1章長期多部門モデル」(共著)、「第9章総貯蓄率」担当), 経済企画庁総合計画局編, 大蔵省印刷局, 1982年。  
『図説 2000年の日本』(「第3章マクロ経済 総貯蓄率」担当), 経済企画庁総合計画局編, 日本経済新聞社, 1982年。  
『行財政改革の経済学』(「財政再建のあり方」担当), 西川正郎・藤岡文七・八代尚宏編, 東洋経済新報社, 1982年。  
『政府活動の経済分析』(「第3章 合理的期待形成モデルと裁量的財政金融政策」担当), 西川正郎・江崎芳雄

著, 総合研究開発機構, 1984年。

『経済審議会計量委員会第7次報告』(「中期多部門モデルの基本的構成」, 「家計消費・住宅投資」, 「労働市場」, 「長期多部門モデルの産業技術想定」担当), 経済審議会計量委員会編, 1984年。

『昭和59年経済の回顧と課題(年間回顧)』(「分析研究編 第五章 対外資産の蓄積」他担当), 経済企画庁調査局編, 大蔵省印刷局, 1985年。

『貿易年鑑 1985年度』(「総論 わが国経済・貿易の動向」担当), 日本関税協会編, 日本関税協会, 1985年。

『1985年度 年次経済報告(経済白書)』(「第一章第一節 ドル高の進行と経常収支黒字の拡大」他担当), 経済企画庁調査局編, 大蔵省印刷局, 1985年。

『昭和60年経済の回顧と課題(年間回顧)』(「分析研究編 第一章 大幅経常収支黒字と為替レート」担当), 経済企画庁調査局編, 大蔵省印刷局, 1986年。

『日本経済読本(14版)』(「第2章 日本経済の成長と循環」担当), 金森久雄・香西泰編, 東洋経済新報社, 1992年。

『人間中心社会の基盤構築に向けて—92年度経済情勢報告』(「第Ⅱ部 内外経済情勢の分析」担当), 財団法人連合総合生活開発研究所経済社会委員会編, 第一書院, 1992年。

『内需主導型経済の再構築—93年度経済情勢報告』(「第Ⅱ部 景気の動向」担当), 財団法人連合総合生活開発研究所経済社会委員会編, 第一書院, 1993年。

『構造調整を超え生活の新時代へ—94年度経済情勢報告』(「第Ⅱ部 緩やかな回復に向かう日本経済」担当), 財団法人連合総合生活開発研究所経済社会委員会編, 第一書院, 1994年。

『日本経済の新機軸を求めて—95年度経済情勢報告』(「第Ⅱ部 足踏みする日本経済」担当), 財団法人連合総合生活開発研究所経済社会委員会編, 第一書院, 1995年。

『日本経済事典』(「第12章Ⅱ 経済政策 経済見通し, 経済対策, 経済計画, 公共投資基本計画, 全国総合開発計画, 財政改革, 地方財政計画, 構造調整」担当), 貝塚啓明, 香西泰・野中郁次郎監修, 伊藤元重・猪木武徳・植田和男・加護野忠男・小峰隆夫・樋口美雄・西川正郎編, 日本経済新聞社, 1996年。

『自律的回復の道と構造改革の構図—96年度経済情勢報告』(「第Ⅱ部 日本経済の動向と政策運営」担当), 財団法人連合総合生活開発研究所経済社会委員会編, 第一書院, 1996年。

『21世紀—持続的経済成長の展望と課題: 地球気候変動, エネルギー不足, 食糧問題の相関関係』(「第1章 地球規模の問題と経済成長」, 「第4章 地球環境問題と持続的経済成長」, 「第5章 地球環境・エネルギー・食料問題と経済成長」担当), 経済企画庁総合計画局編, 大蔵省印刷局, 1997年。

『「構造的失業とミスマッチ」 バブルの発生と崩壊のメカニズム研究シリーズ分析・評価編』(「労働市場と所得分配」担当), 樋口美雄編, 慶應大学出版会, 2010年。

## (b) 論文(査読つき論文には\*)

"Effects of Lower Oil Prices on the Japanese Economy," *Oxford Analytica Daily Brief Limited, Oxford Analytica Daily Brief*, 1986, pp.1-4.

「円為替レートと日本の経常収支不均衡」『日本財政経済研究月報』33巻3号, 1986年, 5-12頁。

"Prospects for Japanese Economy," *Oxford Analytica Daily Brief Limited, Oxford Analytica Daily Brief*, 1986, pp.1-6.

"Prospects for Japanese Economy: Slower Growth," *Prospects for Japanese Economy: Slower Growth*, 1986, pp.1-4.

\* 「需要の部門間移動と日本の失業」 Doctoral Dissertation, University of Hawaii at Manoa, 1989年。

「日本経済の展望と文化経済学」『文化経済学』6巻4号, 2009年, 3-7頁。

「複眼でみる世代; 時代視点と生年視点」『日本財政学会 第75回大会誌』2018年。

「長期非伝統的金融政策下の金利と物価」『フィナンシャル・プランニング研究』2019-19号, 2020年。

### (c) 翻訳

『人間の死と脳幹死』(共訳), 医学書院, 1984年。

『大統領の経済学 ルーズベルトからレーガンまで』(「第七章 レーガン・キャンペーン 喜びの経済学」担当), 東洋経済新報社, 1986年, 251-286頁。

## B. 最近の研究活動

### (a) 国内外学会発表(基調報告・招待講演には\*)

「金融緩和環境下での実物経済動向と財政状況」日本FP学会パネルディスカッション「金融政策の動向と今後の金融市場」, 日本FP学会第18回大会, (慶應義塾大学, 2017年9月16日)。

「複眼でみる世代—生年視点と時代視点」, 日本財政学会, (高松, 2018年10月20日)。

### (d) 研究集会オーガナイズ

「改定国民経済計算説明会」

---

## 7. 学外活動

### (a) 他大学講師等

2001年 - 2016年, 2018年 - 早稲田大社会総合学術院非常勤講師

2018年 青山学院女子短期大学 非常勤講師

2019年 - 2021年 慶應義塾大学 特別招聘教授

### (b) 所属学会および学術活動

日本経済学会

日本文化経済学会

アメリカ経済学会

日本財政学会

日本金融学会計画行政学会

### (e) その他(公的機関・各種団体・民間企業等における講演等)

東京財団 BBL セミナーを主宰(2018年4月 - 2020年6月)